

令和 2 (2020)年度 基盤研究 (S) 審査結果の所見

研究課題名	環境インパクト低減に向けたハロゲン制御技術の体系化
研究代表者	吉岡 敏明 (東北大学・大学院環境科学研究科・教授) ※令和 2 (2020)年 9 月末現在
研究期間	令和 2 (2020)年度～令和 6 (2024)年度
科学研究費委員会審査・評価第二部会における所見	<p>【課題の概要】</p> <p>本研究は、廃プラスチックリサイクルの阻害因子となっているハロゲン族を新たな技術で除去・回収・有効利用して、プラスチックリサイクルの促進に資する研究である。具現化するために、研究はプロセス開発、マテリアルフロー解析・ライフサイクルアセスメント、技術・政策の国際動向分析の 3 部構成からなり、体系化されている。</p> <p>【学術的意義、期待される研究成果等】</p> <p>ハロゲン族を資源物質として捉える新しい概念で、プロセス開発においては「脱ハロゲン技術」「溶媒の検討」「化学修飾法」「塩化揮発法」などの開発要素が明瞭であり、研究の革新性・新規性がある。学術的な意義、重要性にとどまらず、社会的な要請や環境面からも研究の価値・必要性は高く、社会に与える波及効果も大いに期待される。</p>